

今までの取組み

2012年6月～ 住民と学生との協働による道づくり

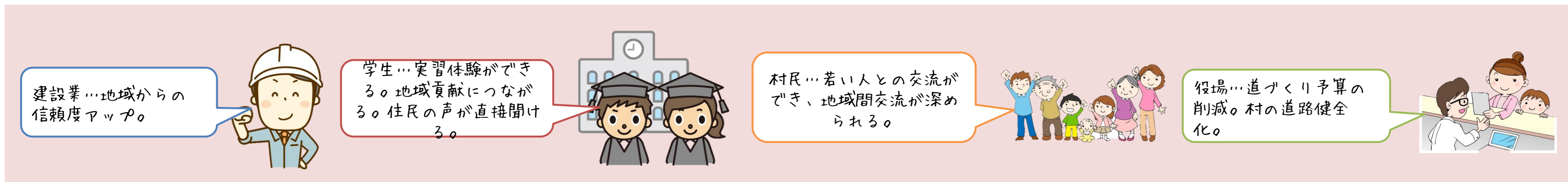
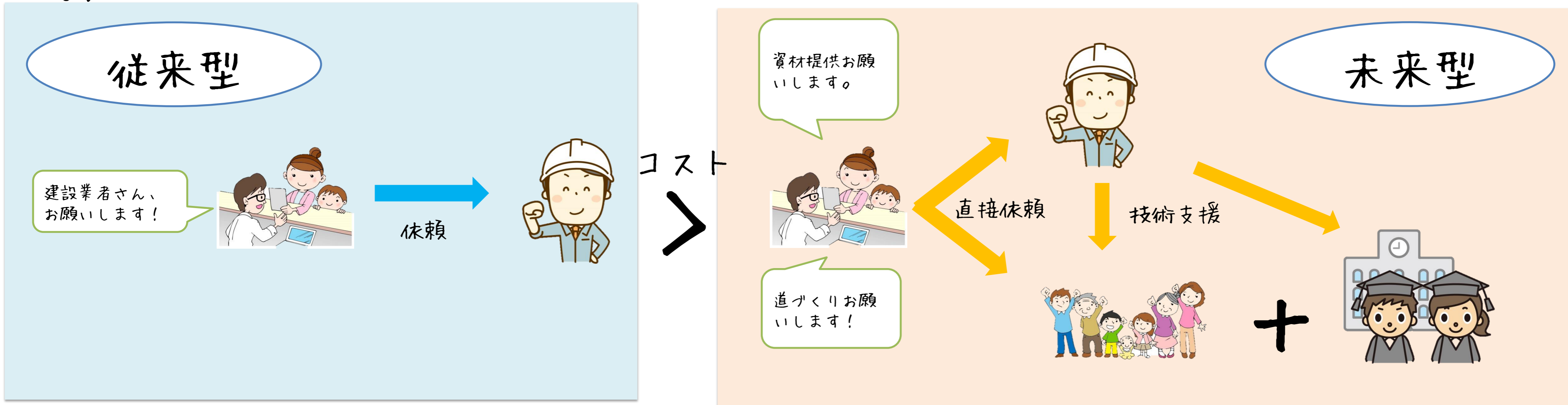
平田村にある砂利道の生活道路をコンクリート舗装して、住民の皆さんが通行しやすく、大雨が降っても砂利が流されて通行できないようなことがないように舗装しました。この道づくりは村民・役場・大学・建設業の4者が協働で道づくりをし、それぞれ4者にもメリットがある、という画期的な取組みです。



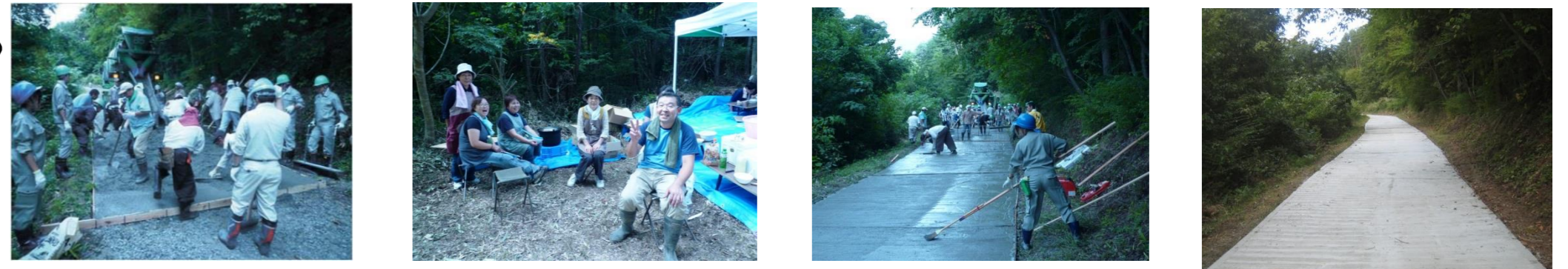
どうして、住民の手で道をつくるの？

一般的な公共事業では自治体から建設業者に発注して施工する。

でも自治体から直接住民に依頼して資材を提供し施工すれば費用は1/3～1/5に抑えられる。



4者が協働で行うことでwin-win-win-winの関係が生まれます。今年も11月7日に平田村でこの道づくりが行われます。道づくりで皆さんにお会いできることを楽しみにしています。



2013年1月～ 橋の名付け親プロジェクト

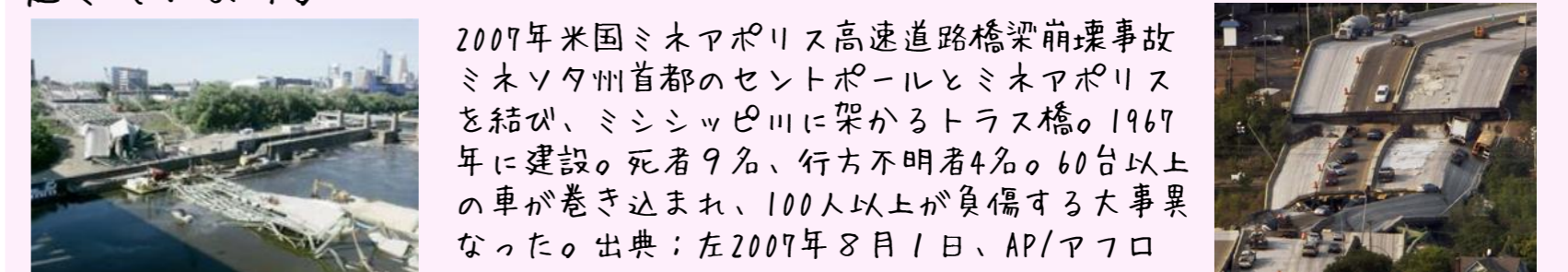
道づくりでは地域のおじいちゃん、おばあちゃんに参加して頂きましたが、若い人にも参加してほしいという思いから、小学生を対象に橋の名付け親プロジェクトを実行しました。今までは「33号橋」のように番号で呼ばれていましたが、番号橋に名前をつけてもらうことで橋に愛着が湧くはずなんです。



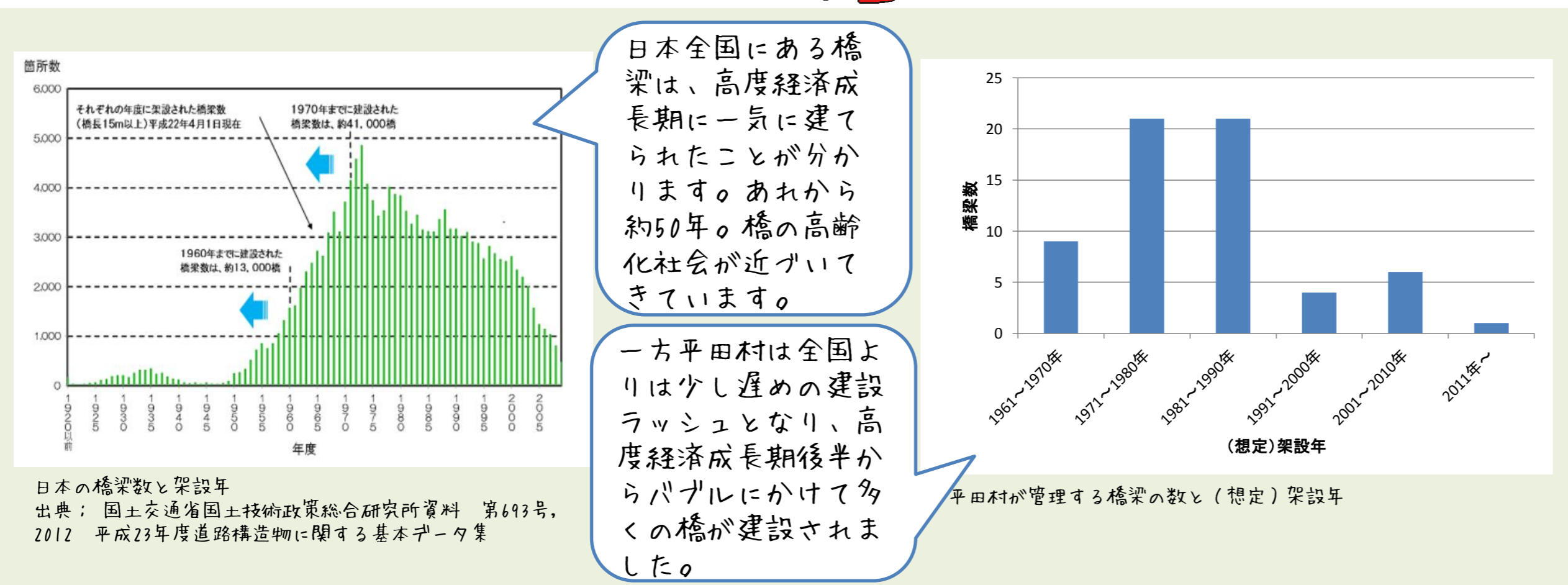
どうして「橋」なの？

それは、「橋の少子高齢化」の時代を迎えるから。

あまり知られていませんが、日本よりインフラの整備が早かったアメリカでは既に死亡事故に結びつく老朽化による橋の崩落事故が起きています。



橋の維持管理にける費用もばかにならず、将来、平田村のような地方の市町村では自治体だけの橋の維持管理は難しくなることが予想されます。自分達で使う橋は、できる範囲で自分達で守っていく体制作りが重要になってきます。少しずつ、近所にある橋に少しでも興味・関心を持つきっかけになって欲しいと思い、橋の名付け親を実行しました。



蓬田小学校には「33号橋」の名付け親に、小平小学校には「72号橋」の名付け親になっていただき、それぞれ「きずな橋」、「あゆみ橋」という素敵な名前を付けていただきました。

2013年6月～ 橋守リプロジェクト

橋の簡単な清掃をするだけでも橋の長寿命化につながります。高欄の塗装であったり、排水柵の清掃などは住民の人でも簡単できる、立派な「橋のメンテナンス」です。住民の方が橋守りの担い手となり、それを技術者が支援するという形で取組みを行いました。この取組みは「橋の歯みがき」としてNHKの解説番組などで取り上げられ、大きな反響を呼びました。

